

**概要**

2030年において、集中型サプライチェーン(副生水素と既存水素配管での水素供給)と、分散型サプライチェーン(再エネ水素と地域のLPガスの配送網を用いた地域自立的な水素供給)の構築を目指す。

**将来の展開:**

- ・集中型サプライチェーンは周南市のトクヤマ付近で実施し、有効性が示された場合は、さらに2本の水素配管での運用を実施する。
- ・分散型サプライチェーンは山口・防府ユニットで実施し、実証で有効性が示された場合、山陽小野田ユニット、岩国ユニット、光ユニット、長門・萩ユニットにも拡大展開する。

**イメージ図(2030年)**

